

# 作庭塾 庭守活動報告

作庭塾 庭守 荒川 昭男

## 講習はまず延段から始まった

新たな会員を迎え、四十名の大所帯となった庭守の講習が、平成二十一年五月二十四日から始まりました。

年内四回の講習は、石にまず慣れてもらうことを考え全て延段としました。

一班班長 植定の渡部さん、二班班長 川田造園の川田さんと班編成をして、班ごとに延段の形を検討し作業にかかりました。

用いた材料は、倉や母屋あるいは石橋等に使われていた本御影、白川御影、守山石等で加工された時代物の葛石と木曽石、又天竜川の玉石そして真黒石。

一回目の講習で感じたことは、全体的に延段の経験が浅い。石を担ぐための腰が出来ていない。その為か玉掛けが未熟。しかし、積極的な姿勢が見受けられ、作業終了後の道具や材料の片付けも機敏に動いてくれ、これから回を重ねるとに成長してくれるとの期待を感じました。

六月十四日の二回目の延段は、材料に葛石、川石、奈良のチャリ石、木曽石、真黒、桜御影の縁石、紋飛石等を用いて行いました。

又、玉掛け、水系の張り方、地堀り、石の突き固め、目地決め、テコの扱い方等

延段作業に必要な、初歩的所作も同時に学んでもらいました。初回と比較して雰囲気は慣れた為か、一人一人の動きが少し良くなったように思いました。

九月二十七日の三回目の講習は、各自が用意した延段のデザインを検討し、選ばれたデザインを形に表すことになりました。図面を書くのは初めてという人もいたようですが、この試みは良かったと思います。

三石を寄せて飛石に見立てたり、曲を出したり、載崩しや、蹲踞につなげたりと、延段には様々な形が考えられるという講習でした。

十一月二十九日に予定されている四回目の講習は、前回同様各自デザインを用意し、灯籠、手水鉢、道しるべ等を加えた講習にする予定です。

平成二十一年四月二十六日 庭守会員募集に応募した四十名の顔合わせが、事務局会議室にて行なわれました。

席上、参加を希望して集まった経験のまだ浅い人達には、知らぬことを尋ねることは、当たり前のことであり、解らないことは積極的に尋ねてください。そのためには礼儀作法が必要で

す。それが出来ない人は庭守で学ぶ資格は無いと話しました。

庭づくりを志す者にとつて礼儀は、技より先に身につける大事なものと思っております。

又、経験を積んできた人達には、庭守の講習会は、絶対服従の徒弟制度継承の場でもなければ、腕自慢の場でもなく、ましてや他人の仕事の陰口を叩く場でもない話し、長い年月をかけて培った技を、少しでも若い人達に伝えて頂きたいとお願ひしました。

私達が若い頃は、小僧は放つといてもある程度の仕事は覚えるといわれていました。それは「仕事は目で盗め」の格言を容易に行なえるほど、仕事の内容が豊富だったからでしょう。

しかし、現在の状況はそうではありません。目で盗みたくても盗める仕事が少ないとなってしまいました。

それが数字として表れているのが技能検定の合格率です。

年ごとに合格率は下降の一途をたどっています。従来の講習の他に、更に講習の場を設けても合格率低下に歯止めがかかりません。

十数年前より、教育研修委員会を代表して実技講習や検定を見学してきました。その印象は、合格した人

はそれなりに事前に練習してきた熱意のある人が多く、不合格になった人の多くが、検定を甘くみて準備を怠つたとの印象を受けました。

このやるせない現実の中で、作庭塾庭守を立ち上げる決心をしましたが、しかし庭守の目的は、実技検定の合格率をアップさせることではなく、合格した人達が、その後も庭づくりへの情熱を持ち続けていける場をつくってやりたいとの気持ちからでした。庭づくりが以前に比べ少なくなった現在、技能継承の場が日常の仕事ではなく、講習というのは悲しいことです。

庭守では、昔は当たり前のことであつた伝える者と、それを受ける者との上下関係の負の部分については極力排除したいと思ひます。

しかし、技を継承するためにはそれなりに緊張感が必要で、その緊張感を持ってない人や、礼儀に欠ける人、又欠席の多い人には退会をお願いする積もりです。

これは私の個人的見解ですが、技を身につける為が一番大切なことは、執着心の持続だと思ひます。

庭守に参加した人達の中で、執着心を持続してくれる人が何人いるか楽しみです。

平成二十二年の講習は、向鉢、中鉢、両使、降り蹲踞と様々な形式の蹲踞を組む予定です。

平成二十二年の講習は、向鉢、中鉢、両使、降り蹲踞と様々な形式の蹲踞を組む予定です。



- 第1回 5/24 横浜農協 延段づくり、玉掛け
- 第2回 6/14 横浜農協 延段づくり、石材、石の運搬方法
- 第3回 9/27 横浜農協 延段づくり、創作延段づくり
- 第4回 11/29 横浜農協 延段づくり、創作延段づくり